

放課後の安心・安全な子どもたちの居場所づくり

放課後子ども総合プラン

国が平成26年度に策定した「放課後子ども総合プラン」では、「太陽の広場」事業と「留守家庭児童育成室」事業の主旨・目的の違いを認識しながら子どもたちが共通プログラムに参加するなど、同じ学校内で連携して事業を進める一体型での実施を目指しています。



吹田市では、全36小学校で連携して事業を進めています。

「太陽の広場」（青少年室）は、“地域の子どもは地域で守り育てる”の視点に立ち、各中学校区の地域教育協議会に委託し、地域の実情に合わせて、各広場の特色を生かしながら開催しています。



子どもたちが放課後を過ごす選択肢の一つとして、安心・安全な居場所の提供を目的としています。見守りは、地域のボランティア（フレンド）の方々、開催日数、活動内容については地域の実情に合せて実施しています。

「留守家庭児童育成室」（放課後子ども育成課）

は、保護者の就労支援等を目的に児童の生活の場を提供しています。**専任**の指導員配置、年間250日以上で開催、専用教室の整備等を行ない法令等に則り実施しています。

太陽の広場の活動

水曜日の放課後を中心に小学校の運動場や余裕教室を利用して1年生から6年生までの全児童を対象に市内全36小学校で実施しています。

子どもたちはフレンドさんの見守りの中、いきいきと運動場での自由遊びや宿題等を友達と一緒にしています。

平成28年度より読み聞かせや工作、囲碁・将棋、スポーツなど様々な体験活動を提供する「活動プログラム」を開始し、地域の方々や留守家庭児童育成室の子どもたちとの交流を楽しんでいます。

